

# AIIT におけるプロジェクト型学修 (PBL) のための Backlog システムの導入

中鉢 欣秀<sup>1,a)</sup> 小山 裕司<sup>1</sup>

概要：産業技術大学院大学（以下，AIIT）では PBL による高度専門職人材の育成に取り組んでいる。AIIT の学生はほとんどが社会人であるため，円滑なプロジェクト活動を支援するグループウェアなどの整備に取り組んできた。2012 年度より新たに Backlog システムを導入し PBL での利用を開始した。このシステムの導入および現在までの運用において得られた知見を報告する。

## 1. はじめに

産業技術大学院大学（Advanced Institute of Industrial Technology）では，高度な職業人材を育成するために必要となる学修のための情報インフラストラクチャを，在学生・修了生等に対して提供している [1], [2], [3], [4]。また，実践的な業務遂行能力を育成するために，1 年間のプロジェクト型学修を必修とし，すべての学生が修士課程の 2 年次にプロジェクト活動を行なうことがカリキュラムの柱となっている [5], [6]。

情報アーキテクチャ専攻では「情報システム学特別演習」を，想像技術専攻では「イノベーションデザイン特別演習」をそれぞれ開講し，計 20 組のプロジェクトがあり，各プロジェクトには 3～8 名程度の学生が所属している。

このプロジェクト活動を支援するためのグループウェアとして iPBL（Infrastructure for PBL）を導入し運用してきた [7], [8]。従来のシステムは，Microsoft 社の Project Server 2010 を中心とした構成で，WBS によるプロジェクト管理システムと Share Point Services によるファイル共有機能を提供した。しかしながら，Windows OS において Internet Explorer での利用を前提としていることやユーザインタフェースの使い勝手などについて，学生や教員から改善要求が多く出されていた。

そこで，AIIT では 2012 年度春より，新たに Backlog<sup>\*1</sup> をプロジェクト内でのコラボレーション・ツールとして導入した。初年度のため，従来の iPBL と併用する形で用いることを想定し，全学生に利用を推奨しているわけではない。



図 1 AIIT における Backlog の利用画面

ここでは，半年間の予備的な運用を通して，従来よりも改善された点や明らかになった課題点などについて考察する。

## 2. Backlog の導入と考察

### 2.1 Backlog について

Backlog は nulab 社が提供するプロジェクト管理ツールである。従来の iPBL は学内に専用サーバを設置して運用していたが，ASP の形態でライセンスを購入した。AIIT で利用している Backlog のトップページを図 1 に示す。

Backlog の主要な機能は，

- (1) 課題管理
- (2) ガントチャート
- (3) ファイル共有
- (4) バーンダウンチャート

である。また，プログラミングを行うプロジェクト向けに，ソースコードのバージョン管理を Subversion と Git で行えるようにした。

<sup>1</sup> 産業技術大学院大学  
AIIT, Shinagawa, Tokyo 140-0011, Japan

<sup>a)</sup> yc@aiit.ac.jp

<sup>\*1</sup> <http://www.backlog.jp/>

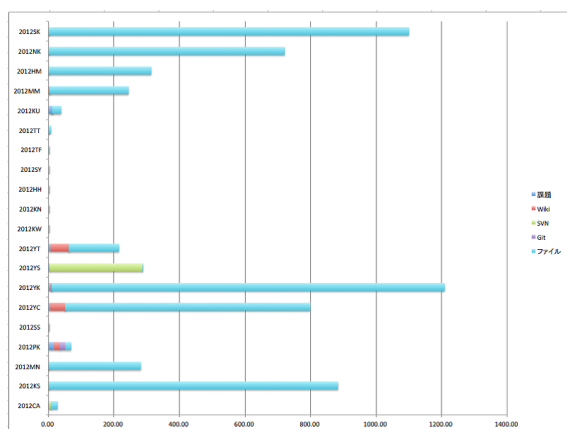


図 2 ストレージの使用量

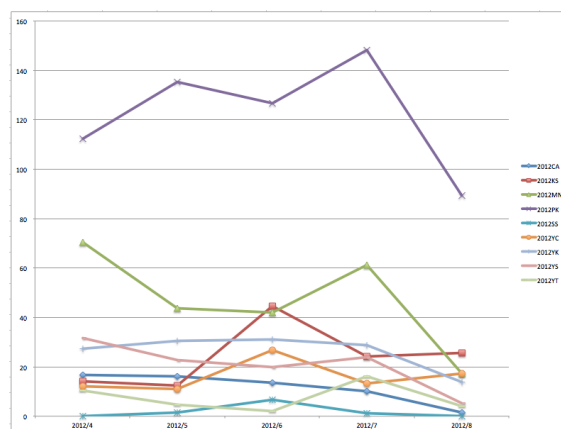


図 4 1 メンバあたり課題アクション数

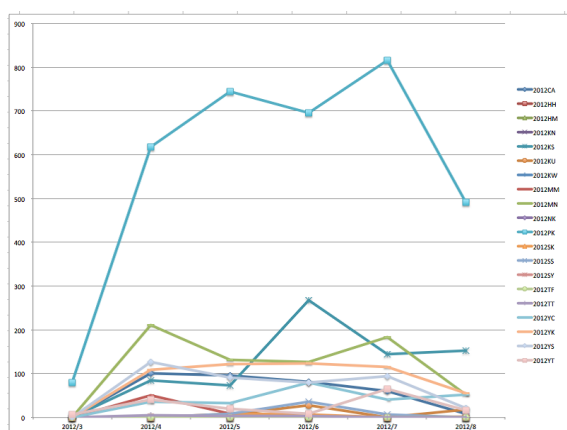


図 3 課題アクション数

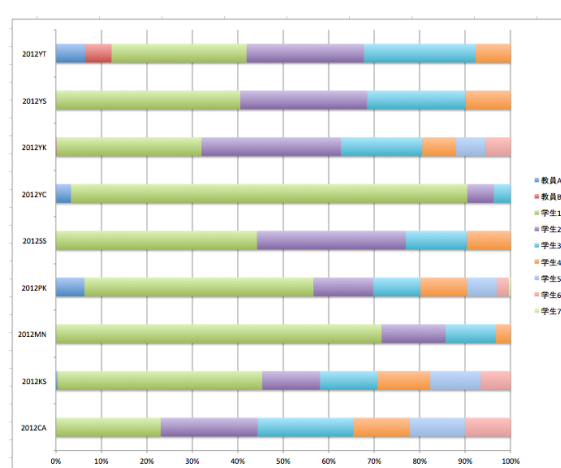


図 5 1 メンバあたり課題アクション数

## 2.2 ストレージの使用量からみる利用状況

はじめに、ファイル共有機能の利用状況を示す。各プロジェクトごとの容量は5GBに設定し、大きめのファイルを扱いたいときは別途ファイルストレージを準備してもらうことにした。

今年度前期が終わった8/31現在のBacklogのストレージの使用量を図2に示す。Backlogの活用はプロジェクトごとに偏りがみられた。1/4程度のプロジェクトはまったく未使用である。ストレージの使用量だけをみるとファイル共有の消費が目立ち、実際ファイル共有だけに使っているプロジェクトが多い。Wikiは8プロジェクトのみが使い、バージョン管理は利用開始願いが必要であり、5プロジェクトだけがこれを使っている。

## 2.3 課題アクション数の状況

図3に4/1から8/25までの課題アクション数をまとめた\*2。課題アクション数とは新規課題の作成、コメント、作業進捗及び完了の報告の数である。情報アーキテクチャ専攻では突出して利用しているプロジェクトと、ほとんど未使用だと思われるプロジェクトがある等、程度の違いはあるが、すべてのプロジェクトで課題管理を使っている。

\*2 なお、8/11以降は夏休み期間のため活動量が少ない。

これに対して、創造技術専攻では4プロジェクトがかりうじて使っているだけであった。

## 2.4 一人あたりの課題アクション数

情報アーキテクチャ専攻の各プロジェクトのひとりあたりの課題アクション数を整理したものが、図4である。平均すると1メンバあたり1日1件程度のアクションである。

これを構成メンバの関与の度をパーセンテージで示したものが図4である。メンバ内での役割の違いに依存するが、3プロジェクトでは特定の1名が50%以上関与している状況が見られる。特に、あプロジェクトでは約87%が特定の1名のアクションである。このように、メンバーが実施したアクションに関するパーセンテージには、偏りがみられた。

## 3. Backlog 利用状況に関する考察

ここまで見てきたとおり、現状においてはBacklogはすべてのプロジェクトで活用できている状況ではない。これは試行的に導入しているという現状ではやむを得ないが、ファイルの共有機能など、有効に利用されているものもあるので、今後はより積極的に活用するように促していく必

図 A.4 Wiki による議事録の作成